

「ぼくの誇り」

阿蘇市立阿蘇北中学校

二年

江藤

海都

父は僕が小さい頃から消防団に入っていました。消防団は、地域の方々の命を守る素晴らしい仕事だと思っています。父がその仕事をしていて、誇りに思うし、ずっと続けてほしいと思います。

父は、消防団の大会が近づいてきたら、仕事が終わって、消防の練習に行ったり、夜遅くまで練習してきます。大会の内容はよく分からないけれど、練習はきついことをしているのだと思います。

消防団は、時々、ポンプの点検や器具点検をしていて、ポンプの点検は、いざとなったらポンプがこわれていて、水が出なかったら大変だということと、こわれてないか日頃からしっかりと点検をしていくそうです。器具点検は、ホースがやぶれていないか、消防車のエンジンがかかるかを常日頃、点検しているそうです。やはり、消防団に入るのは、そんな

なにしたやすいものではないし、命をかけたす  
るものだから、勇気が必要になると思います。  
その消防団に入った父は勇気があると思っし  
とでも誇らしく思います。

この前、二階の窓から外を見ついたら、遠  
くの家から火が上がっていました。それを見  
た父は、急いで、階段を降りて消防車が入っ  
ている倉庫に行っていました。そして、どの  
団よりも早く火事の家に向かっていました。  
火は数時間で消されましたが、父、いや、消

防団の方達は、人を助けようと、必死になっ  
て火を消していました。幸い、その家  
に人がいなかったという事で、安心しまし  
たが、家の中に人がいたらと思うとゾッとし  
ます。だから、命を張って仕事をする消防団  
の方達はとでもすごいし、勇気があるなと思  
いました。僕は命をかけて仕事するなんて、  
考えてもいなかっだし、そういう勇気がない  
と思います。だから、消防団の方達がとでも  
うらやましいです。僕は時々、勇気があつた

ら、こうならずにするだのに…と思うことが  
あります。勇気というのには、日常的にいつも  
必要に分ると思えます。だから、勇気を持つ  
て、積極的に人と接したり、活動したりして、  
一日一日を心がけていきたいです。

僕の父は自分の仕事を持ちながら、地域防  
災のために日夜活動しており父はすごく頑張  
っています。これからもずっとと人の命を助け、  
命の安全を守ってほしいと思います。  
そして、僕も消防団みたいにして人を助けられる

仕事をしたいきたいと思うし、そのためには、  
今から、人を大事にしていき、思いやりの大  
事さ、人の命の大切さをこれから学び、考え  
日々生活していく必要がわかります。そして、  
父や消防団のよう人を助けられるか、こい  
い仕事をしたいこうと思います。